

2017年ゾウ健康管理ワークショップ（米国）参加報告

○古田 洋

（横浜市立よこはま動物園）

2017年2月24日から27日にかけて、アメリカのフェニックス動物園で行われたゾウ健康管理ワークショップに参加した。参加者は約20名で、多くはアメリカの動物園のゾウ担当者だったが、メキシコ、イスラエル、ニュージーランドからも参加があった。内容はゾウの健康管理全般で講演と実習が交互にあり、よく練られたものであった。講演者はエレファントビジネス代表のアラン・ルークロフト氏の他、元サンディエゴ動物園獣医師、歯科専門獣医師、ダブリン動物園やチェスター動物園のキュレーターなどであった。講演はゾウを健康に飼育する上での施設設計やエンリッチメント、オスゾウの管理、安全な麻酔方法、輸送方法の例など多岐にわたり、特に健康管理面においては、足、歯、牙を中心に解剖学的な面から実際の治療例まで紹介された。実習では足のトリミング、ロープワーク、ゾウ転倒時の起立補助など、より実践的な内容となっていた。今後の主流となるであろうゾウの飼育施設や、数多くの麻酔下治療例、エンリッチメントの豊富さに驚きを隠せなかったが、同時にゾウを飼育する上での責任を再認識する時間となった。また、各地で働いているゾウ担当者の現場の声を聞いたことも良い経験となった。アメリカの動物園といっても全てが恵まれた施設というわけではなく、またゾウの群れ飼育をしているわけでもない。様々な問題を抱え、何とか現状を改善したくてそのヒントを得るために参加したという声をよく耳にし、とても印象に残った。講演の最中にはAZAのゾウ飼育方針の決定をめぐるアメリカ国内の動向や飼育方法についての討論が行われることもあり刺激的であった。次回は2019年に開催される予定である。